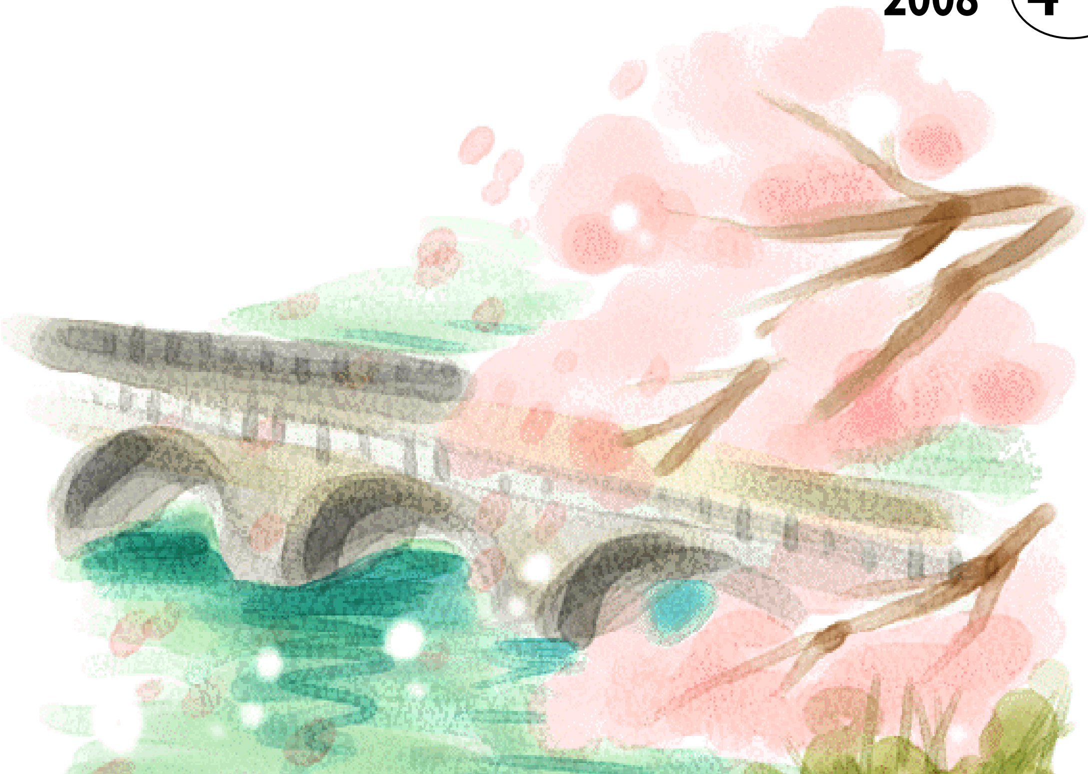
岩美病院

だより

2008 ④・⑤



特集：

・後期高齢者医療制度
・花粉症について
・介護保険の申請から利用までについて
・職員紹介

平成２０年4月から、
後期高齢者医療制度が始まります。

この新しい制度では、今後の高齢社会の医療費を安定的に支える為、現役世代と高齢者の方々が負担能力に応じて、公平に負担することを目的としています。よって、高齢者の方々は、皆、負担能力に応じて公平に保険料をご負担いただくことになります。原則として、都道府県内で、同じ所得であれば、同じ保険料になります。

対象となる方

- ７５歳以上の方全員
- ６５歳～７４歳の方で、寝たきり等一定の障害があると認定を受けた方

◎医療機関での自己負担について

病院など医療機関の窓口で支払う自己負担の割合は、１割（現役並み所得者は３割）となります。

保険証に自己負担割合が明記されていますので、ご確認下さい。また、受診の際には、医療機関の窓口に保険証を提示して下さい。

・保険証⇒独自のものが１人１枚交付となります。

介護保険の申請から利用まで

平成 12 年から、介護保険制度が始まっています。

突然ですが、皆さんは、介護保険を利用したいが、どこへ行ったらよいのか、どうしたら利用できるのか、疑問に思われていませんか？

実際、入院されている患者様で、このような疑問を持たれている方がいらっしゃいます。

今回は、手順をご紹介しますので参考にしてみて下さい。

＜対象となる方＞

◎ 加齢により何らかの介助が必要な６５歳以上の方

◎ ４０歳～６５歳未満の方で、老化が原因とされる病気（脳血管疾患や、初老期における認知症など）により、介護が必要になった場合

＜手順＞

① 申請をする

・ 市町村の“ 福祉保健課 ”に、本人・家族、ケアマネージャー（居宅介護支援専門員）が、「要介護認定」の申請をします。

② 訪問調査

・ 心身の状況を調べるために、本人や家族へ福祉保健課が聞き取り調査を行います。

③ 主治医意見書

・ かかりつけ医が医学的な観点から患者様の体の状態についての意見（意見書）を書きます。

④ 一次判定

・ 訪問調査と主治医意見書のチェック項目を基に全国一律の基準で、コンピューターが介護度を判定します。

⑤ 介護認定審査会

・ 訪問調査の内容と医師の意見書と一次判定の結果を基に、保険、医療、福祉の専門家が審査します。

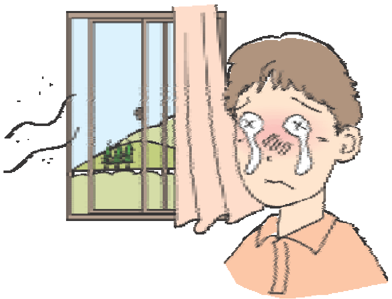
・ 申請から、３０日以内に認定結果が通知されます。

当院では、1 階内科外来の 1 室に「すこやか相談室」を設け、専門相談員が上記のような相談を受けていますので、お気軽にご相談下さい。

（平日８時半～17 時半）

花粉症について

冬が終わりだんだん暖かくなってくると気持ちも弾(はず)みますよね。しかし中には気分がめいる人もいます。そう、花粉症(かふんしょう)の人です。なんと日本人の約 20%は花粉症なのだとか。ちょっと時期はずれですが、今日はそんな花粉症についてのお話です。



＜花粉症はどんな病気？＞

もともと人間の体には、体に進入しようとする病原体(びょうげんたい)を排除(はいじょ)する免疫(めんえき)という機能(きのう)が備(そな)わっています。通常免疫が働くのは病原体に対してだけで、花粉のような人体に無害(むがい)な物質(ぶっしつ)には反応しません。しかし一部の人は本来無害なはずの物質に免疫反応が起こってしまいます。これをアレルギー反応と呼びますが、花粉症は花粉に対するアレルギー反応が原因で起きる病気とされています。花粉を病原体と誤認(ごにん)し、体の外に排泄(はいせつ)しようとするので、目が充血(じゅうけつ)して涙がでたり、鼻水が多量にでて鼻づまりやくしゃみを引き起こします。スギやヒノキ、ブタクサ、シラカバなどの花粉が花粉症を起こしやすいとされ、それぞれ花粉が飛ぶ時期が決まっているので花粉症の人は毎年同じ季節に同じ症状を引き起こすのが特徴です。近年では複数の花粉にアレルギーを持つ人や、ダニやほこりにアレルギーを持っていて一年中鼻が詰まっている人も増えてきているようです。

＜どんな症状がでるの？風邪との見分け方は？＞

花粉症の症状と初期の風邪は症状が良く似ていますが、花粉症には次のような特徴があります。

・症状が長引く：風邪の場合鼻水・鼻づまりはせいぜい 1,2 週間ですが、花粉症はさらに長い期間続きます。

・くしゃみがひどい：花粉症のくしゃみは 7,8 回続けてでる事が多いようです。

・鼻水がさらさらしている：風邪の鼻水も初期はさらさらしていますが、次第に緑～黄色になって粘っこくなります。花粉症の鼻水はいつまでもさらさらしたままです。

・鼻づまりがひどい：花粉症の鼻づまりは、両方の鼻が詰まってしまい、鼻で息ができないほどにひどくなることがあります。

・目のかゆみや充血、流涙がある：通常の風邪ではこのような症状は認めません。

・咳(せき)や熱といった症状がほとんどない：喉の痛みもあってもわずかです

そのほか、アレルギー疾患(しっかん)の経験が本人や家族にあること、毎年同じ季節に症状が現れることなども参考になります。

＜治療法は？＞

一番の治療は花粉との接触を避けることです。具体的には、花粉がもっとも飛びやすい午後 1 時～3 時ごろの時間帯はなるべく外出を避けること、外出する場合はマスクやメガネ、マフラーなどで防御すること、コートや上着は部屋に持ち込まず玄関に置くこと、洗濯物は外に干さずに部屋干しすること、掃除をこまめにすることなどです。また、衣服もセーターのようなふわふわしたものは花粉を吸着しやすいため、つるつるした素材のものを選ぶことも効果があります。最近では花粉注意報として花粉の飛散状況をテレビニュースなどで流しているので、それを参考にして外出予定を立てるのもひとつの方法です。

以上の対処でも症状が抑えられない場合は薬を使うことになります。飲み薬と鼻に直接噴霧する点鼻薬の 2 種類があり、症状によってどちらかひとつ、あるいは両方使用します。薬を使用する場合最も大切なのは症状が出る前から薬を使うことです。花粉が飛ぶ 2 週間ほど前から薬を使用しておけば、症状が出てから使うよりもはるかに症状を軽くすることが可能です。以前の飲み薬は眠たくなるものが多かったのですが、最近のものはほとんど眠たくならず、服用回数も 1 日１回か２回ですみます。毎年症状がでて困っている方はぜひ医療機関を早めに受診してください。

また、最近見直されてきた治療法として、減感作療法というものがあります。これは花粉症の原因となる物質をほんのわずかずつ注射していき、体を徐々に慣らしていく治療法です。始めは週 1 回、薄い液の注射から初め、徐々に濃度を濃くして間隔をあけていき最終的には月に 1 回の注射を 2～3 年行います。治療を行った 80％程度の方で症状の改善をみとめ、中でも 30～40％の方は全く薬が必要なくなったとの報告もあります。特に１年中症状が続くハウスダストアレルギーの方には効果が高いようです。現在実施できる医療機関は限られていますが、興味のある方は一度医師に相談してみてください。

岩美病院　小児科　大谷　英之医師

新職員をご紹介します

初めまして。

今年の一月より岩美病院放射線室に赴任となりました診療放射線技師の田村　登志雄と申します。

放射線技師になってまだ１０年目の新参者ですが、先輩方にご指導を頂きながら微力ではございますが岩美病院の発展のために活躍をしていきたいと思いますので末永くよろしくお願いいたします。

放射線技師の仕事は、一般撮影（骨・肺などの写真）・CT 撮影（輪切りの写真）・MRI 撮影（磁石を使った輪切りの写真）・胃、腸のバリウム撮影・乳房撮影（マンモグラフィー）・歯科撮影（歯と歯茎を撮影）・手術補助など多彩な検査があります。一通り経験してきましたがまだまだ奥の深いものだと日々精進している次第です。特に最近皆様もよく耳にし始めているかと思いますが“マンモグラフィー”検査。私は乳房撮影制度管理委員会認定の乳房認定技師の資格を所得しておりますが、経験はまだまだ浅くここ岩美病院で乳房撮影の達人となって、受診される患者さんや地域住民の方々の力になれればと考えております。

さて私事の紹介になるのですが、私は産まれも育ちも鳥取県で生粋の鳥取県人ですが、高校卒業後に東京の学校に進学、東京の病院で就職をして今やっと県人に戻りました。

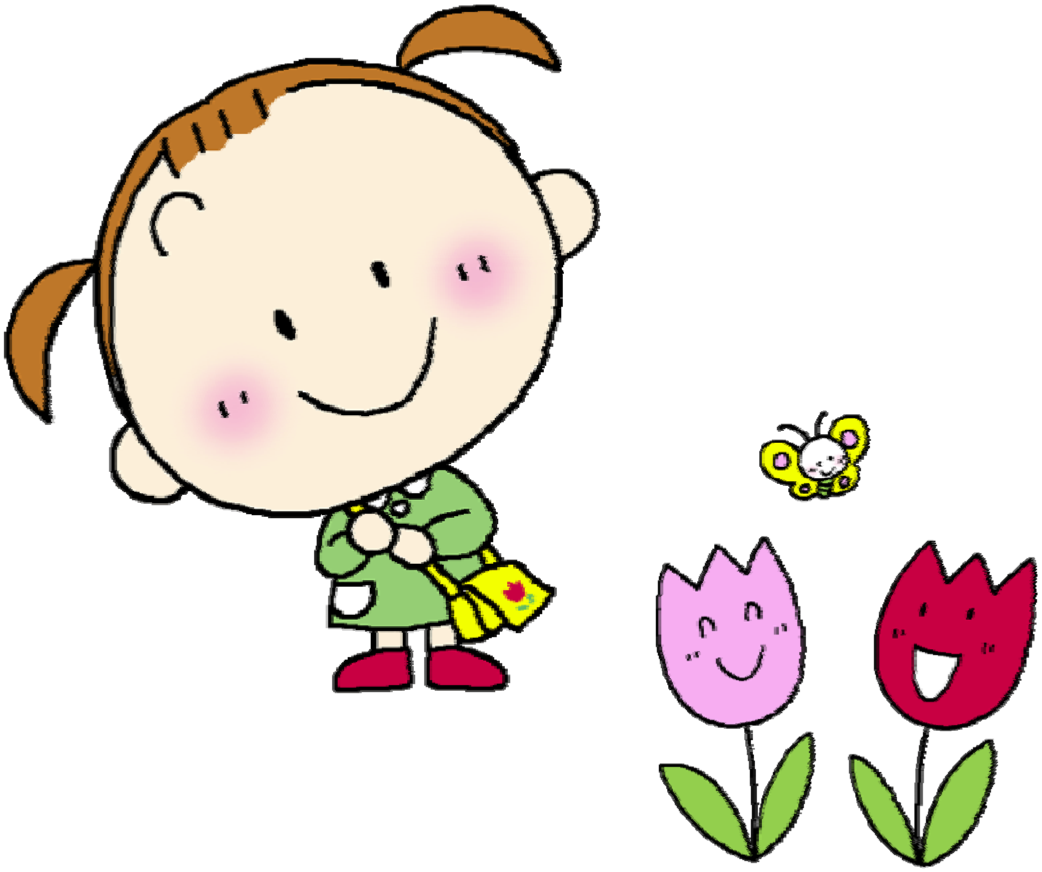
趣味はもろもろでスポーツ、旅行、アウトドアなどなど、とにかく楽しい時を過す事が日々の活力となっています。

こんな私ですが、どうぞ皆さんよろしくお願い致します。

編集後記

冬が過ぎ、桜が開花して春本番となりましたが、皆さんいかがお過ごしですか？気候がよくなり、何かと外出する機会が増えている事でしょう。

ご高齢の方は、特に転倒や事故に注意され、外出を楽しんでいただきたいと思います。

そんな楽しい季節に、当院にも新しいスタッフが赴任や就職されてきます。来月号では、その方々の紹介を予定としていますので、また目を通してみて下さい。

編集　尾　崎
　　　山　岡
　　　細　川